

札幌市博物館活動センター 情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

No.69
July 2018



ビロウドツリアブ

アブの仲間で、成虫は花の蜜や地面の水分を吸います。幼虫は肉食で、ハナバチ類の幼虫に寄生します。ツリアブの仲間は、蜜を吸う時に花や葉に止まらず、羽根を素早く動かしながら空中に浮いたまま停止できる“特技”を持っています。写真は博物館活動センターの裏庭で、エゾムラサキツツジに来ていたところを展示解説員が撮影したものです。

撮影：前田 亜沙美

100年前の地形図が教えてくれたこと

—古い資料から読み解く新しい発見—

今からおよそ100年前、1924(大正13)年の札幌の様子を記録した地形図があります(図『札幌市街之図—視形線図—』札幌市公文書館所蔵)。この地形図には明らかに等高線と思われる線と数値の書き込みがあり、この時代では唯一の詳細な土木測量の結果が記録されている地形

図だと思われました。札幌の市街地はその後の開発によって、本来の地形が巨大なビルや道路の下になってしまいましたが、この地形図には100年前の札幌の姿が記録されているはずです。

そこで、公文書館の許可をいただき、GIS

(Geographic Information System:地理情報システム)という技術の専門家である長岡大輔さんを中心に、5人のメンバーでこの地形図について、調べてみることにしました(長岡ほか、2017)。GISとは、地形や標高など、さまざまな地理的な情報をコンピューターの地図上に投影し、それぞれの関係性、パターン、傾向などを分かりやすく示す技術です。

まず手始めに、そこに描かれている等高線や数値を現在のものと重ねてみることにしました。ところが、この数値と等高線が現在のものとまったく一致しません。一時はこの地形図の信ぴょう性を疑い掛けた時、長岡さんが気付きました。もしかするとこの数値はメートル法の計測値ではなく、尺寸法で測ったものではないかと…。尺寸をメートルに変換してみると、案の定、現在の等高線とほぼ一致し、非常に正確に測量されていることが分かりました。後は、札幌が本来持っている地形の特徴をこの地形図から読み

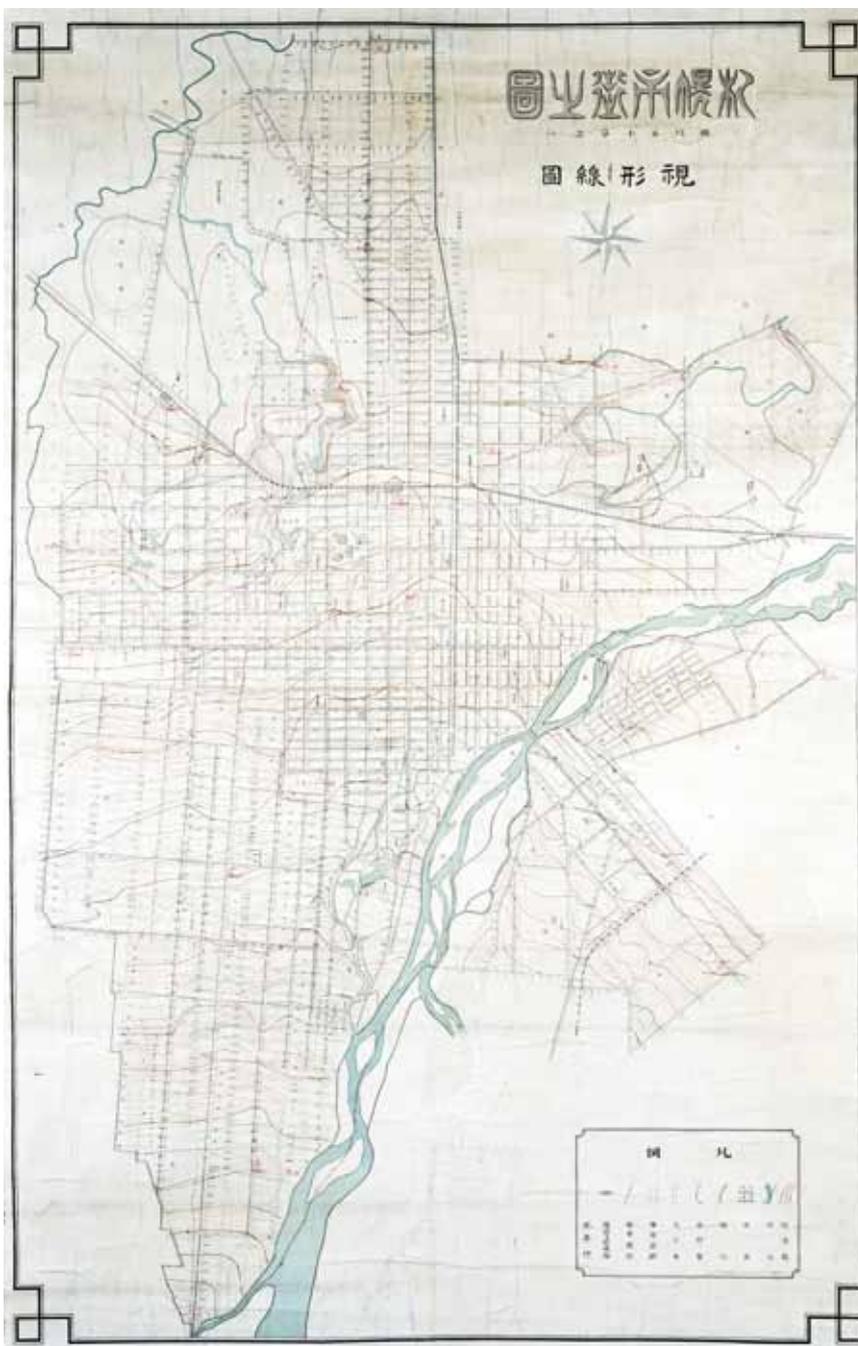


図:『札幌市街之図—視形線図—』1924(大正十三)年(札幌市公文書館所蔵)

取ることです。

その結果、現在の豊平川の左岸にはその流れに沿って尾根状の高まりを示す地形があり、道庁や市役所、札幌停車場（現在のJR札幌駅）はいずれもこの高まりの上にあることが分かりました。重要な機関をまず洪水の心配の少ない凸地に配置するという先人たちの知恵です。

さらに、札幌の市街地が広がる扇状地の特徴であるアイヌ語でメムと呼ぶ湧水は、この尾根の西側に多く分布していることが分かりました。これはかつての豊平川本流が尾根の西側を流れ、その地下に姿を隠した河川水を含む地下水が、扇状地の層が薄くなる扇端付近から湧き出していることによるものと考えられます。現在の豊平川は今からおよそ200年前の1801～2年ころに、洪水によって流れを変えたことが記録に残されています。200年前の豊平川本流がこの尾根の西側を流れ、その一部がメムから下流の

伏籠川^{ふしこ}となって今も残っています。現在の豊平川にも湧水があり、毎年^{そじょう}遡上してくるサケは一年中凍らない湧水を選んで産卵するといひます。メムからあふれ出た地下水が日本海まで通じていた時代、かつての豊平川の水の臭いを記憶したサケがメムまで遡上し続けたのはそういう理由だったのです。

博物館の大切な仕事に、過去の資料を集め、大切に保管するという使命があります。過去の資料は決して古い、役に立たない資料ではありません。新しい技術や知識によって新たな情報を手に入れることができる重要な情報なのです。札幌を丁寧に記録した当時の技術者に感謝するとともに、深い敬意を表したいと思ひます。

長岡大輔・古沢 仁・重野聖之・丸谷 薫・池田隆司(2017)「札幌市の市制開始期における詳細地形と水文環境」、日本地図学会『地図』、Vol.55、No.3、P.1-9.

文／学芸員 古沢 仁

ホット
コラム

展示室につき

その疑問大切です！

○月×日 絵と文 展示解説員 前田亜沙美

来館者の方々から、日々展示物についてや、素朴な疑問など、たくさん質問をいただきます。

「どうやって化石になるの?」「春になると飛んでる綿毛ってなに?」「など、なんでだろう?どうしてだろう?」と疑問に思うことはその分野の興味や研究につながるとても大切なことです。

自然史に関する質問は、より面白く、興味をもってもらえるよう、解説員として一生懸命答えています。

しかし、解説員でも分からない時やもっと詳しく知りたい!という時は、解説員と一緒に古生物(化石)と植物の学芸員に聞きに行きましよう!自分だけだと勇気がいりますが、解説員と一緒に大丈夫。

実際に学芸員に質問した皆さんは、そろってキラキラとした表情を



して、学芸員とお話できたことをとても楽しんでくれています。質問をきっかけに研究分野に興味を持つてくださる方がほとんどです。

皆さんも身近にある植物や化石、札幌の成り立ちについて疑問に思ったら、ぜひ博物館活動センターに足を運んでみてください。新たな興味や発見につながるかもしれませんよ!

コレクション クエスト

ふだん公開していない
収蔵物を紹介します。
さあ、標本の世界を冒険だ!

クサソテツ
茶色のものは秋に出る孢子葉。
植物標本5053



クサソテツはシダ植物の一種です。札幌の山林でもよく見られ、春に出る芽は若葉がグルグル巻きになった形で、山菜の「コゴミ」として親しまれ、成長すると1mにもなる大きな緑の葉になります。一方、秋に出る芽は春とは異なり全体が茶色く、孢子をつけることに特化していて、食べられません。

センターの標本庫にはこのような身近な植物もたくさん収蔵しています。

文・写真/学芸員 山崎 真実

File No.5 博物館活動センターの 1年間を振り返る

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の自主的活動や、学校との連携など、様々な活動を紹介します。

2018年3月、博物館活動センターで1年間の調査研究や活動の様子を紹介する「博物館活動日誌」を開催しました。研究中の「小金湯産クジラ化石」のレプリカ標本や寄贈を受けた「タカハシホタテ化石」、2016・2017年度に行った「札幌の希少植物調査」の結果などを展示しました。学芸員が展示解説するイベントも行い、参加者の皆さんはクジラ化石の大きさに驚いたり、分からないことを質問したり、興味深く解説を聞いていました。また、春休み期間中には、新学期を迎える子どもたちが、アンモナイト型の消しゴム作りを楽しみました。博物館活動センターではこれからも皆さんにより身近に感じていただけるよう、さまざまな形で活動を伝えていきます。



2018年2月に完成したての小金湯クジラ化石のレプリカを解説中



交通アクセス

- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
- 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約14分

札幌市博物館活動センター infomation

入館料：無料
開館日：火曜～土曜 開館時間：10時～17時
休館日：日曜・月曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



ホームページアクセス
二次元コード



発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel: 011-374-5002 Fax: 011-374-5014
Email: museum@city.sapporo.jp ホームページ: <http://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュージレターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。